

平成21年度第1回薬学教育FD/IT活用研究委員会議事録

- I. 日時：平成20年7月30日（木）午後2時から午後4時まで
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室
- III.出席者：松山委員長、黒澤副委員長、山岡委員、山村委員、大嶋委員、高取委員、大谷委員、松野委員、福室アドバイザー、梶原アドバイザー

IV.議事録

- 1. 議事に先だって、本年度より新たに委員として加わった高取，大谷，松野の各委員から自己紹介があった。

2. 検討内容：「OTCをテーマにしたシナリオ作り」について

・経緯説明

本項目について、はじめに副委員長より経緯の説明があった。

薬学部5,6年次の学習内容として想定されるPBLにおいて、病院や調剤薬局ではなく、OTC業務を想定した教育教材が不足している。そこでsmall group discussion用のシナリオを作成し、これらを私情協HPを通じて公開、教材として活用して頂こうというのが元々の目的である。これに基づいて20年度第3回委員会（H21.2.23開催）で各委員がシナリオを持ち寄ったが、到達目標やシナリオの形態がバラバラであった。そこで、本教材の到達目標を明確にし、統一したフォーマットでシナリオを作成する事で合意し、そのひな形を委員が作成する事で合意していた。

ひな形は3月までに作成する予定であったが、実際には7月17日に眼科用剤に関する作成シナリオのみが「宿題」として事務局より配信された。このシナリオに対するコンセプトや詳しい説明がなく、また新規に選出された委員などに経緯の説明もなかったため、結局、全委員が宿題の意味を理解できずに本日の会議を迎えてしまった。

以上のことから、本案件に関しては最初から仕切り直しとなり、どのようなコンセプトでシナリオを作成するかを今回の会議で決めることになった。

・到達目標の設定

まずシナリオの作成にあたっては、最初に到達目標を明らかにする事が重要と

の意見が出て、議論の上で承認された。

また、OTC の多くは複数の成分が含まれた合剤であることに対して、配合剤に関する講義が薬学の科目にほとんどなく、また学習においては成分毎の相互作用についても把握した知識が必要となるとの意見も出た。

一方で、現在でも OTC 薬局の薬剤師は、患者の症状を聞きながら、多くの医薬品から患者に最適なものを提案しており、日常業務の中で OTC 薬の選択は重要なスキルである、OTC 薬局はこれから健康相談の窓口として重要になってくるなどの意見があり、今後の 5,6 年次教育における OTC 教育の必要性については委員で共有できたと考えられる。

以上の議論などもふまえ、最終的に以下のようなコンセプトでシナリオを作成する事とした。

1. 到達目標：処方箋薬剤と異なり、OTC 薬は複数の成分が配合されている。それらから面談において患者に最適な薬剤を提案することを到達目標とする。
2. 患者の主訴を主体にした最初の情報提示は 5 行程度の短いものとし、患者に関する簡単な情報も加える。症例解析事例のような詳細な情報はつけず、少ない情報や患者とのやり取りの中から必要な情報を引き出す能力を身につける。
3. シナリオの構成は
 - a 最初の情報提示
 - b 症状に関する最初の SGD から予測される疾患と対応を求める
 - c 学生にヒントを与えるような質問 (advisory question) を加える
 - d 模範回答例集を作成する。回答例の中にはダミーも含める
 - e 医師への受診勧奨を行う必要のある症例についても解説する

上記シナリオについて、次回の会議までに表 1 の分担で疾患別に作成することとした。

表 1. OTC シナリオ担当者分担表

分類	担当
鎮痛薬	松山
かぜ薬	山岡
鎮咳去痰薬	(山岡)
花粉症	山村
強心薬	佐藤
胃腸薬	大谷
便秘薬	高取
目薬	鈴木
歯科口腔器官用薬	(松野)
肛門用薬	松野
皮膚疾患用薬	斎藤
水虫用薬	(大嶋)
滋養強壮保健薬	大嶋
婦人用薬	黒澤
ダイエット食品(医薬部外品)	(山村)
その他	

なお、本シナリオについては私情協のサイトに web コンテンツとして広く公開し、どのように活用されているかを解析する事を想定する。この件に関して委員長から、以前作成したコンテンツが必ずしも有効活用されていない事への懸念を示され、本シナリオをきちんとした形で公開し、広く活用して頂く事で委員の業績としてつなげていきたいとのコメントがあった。また、有効活用などの観点から、将来的にはシナリオの検索システムも組み入れたいとの意見が委員から出た。

次回委員会：北海道薬大にて行う。日程は9月14日を主に複数の候補日から調整する事とした。

以上